

1 題材名 気持ちを繰り返す言葉で表現しよう _____ 子音 r 音 _____

2 題材について

(1) 学級の実態

本学級の在籍は3年生と6年生の2名である。3年生は2年生より在籍し、軽度の感音難聴で両耳に補聴器を装着している。本題材において個別指導する6年Aは、本学級に1年より在籍している。Aは、発話器官(唇・舌・喉など)には異常はないが未熟で呼気が弱く、声が震える。構音障害以外にも体全体に震戦があり眼球も揺れるため物をつかむ・文字を書く・歩行など、すべての動きに時間がかかり学校生活全体の活動にサポートを必要とする。集団が大きくなると緊張が強くなり、声をかけられるまで仲間に入れないこともあるが、交流学級の友達と一緒に時間を過ごすことを楽しみにしている。

学習形態は、教育的ニーズに応じた学習内容にするため個別が多い。だが、週に2度2名揃ってSSTを行ったり、特別支援学級特設で10名程度の小集団活動を行ったりしている。個別で経験したことを小集団で試し、交流学級や縦割り班活動などの集団で生かしていけるように自立活動を行っている。

(2) 指導観

Aの名前には、「り」音が入っている。だがAが自分の名前を言う時「り→い」に置換されてしまう。Aは、来年度、中学に進学する。入学すると自己紹介をする機会が増えると考えられるため、「r(子音)」の構音を定着させ自信を持って自分の名前を言えることをねらい本題材を設定した。

指導にあたっては、意欲を高めるために体験したことを教材にした。前単元の「乗り物に乗って買い物に行こう」で、公共の乗り物に乗ったり、マクドナルドで買い物をしたりした体験を活かす。「乗り物に乗って買い物に行こう」の時の様子を家族に説明することを目的として、説明する時に気持ちを表す繰り返す言葉、「ランラン・ルンルン・ハラハラ」を使って「r(子音)」の構音練習を個別で行ったり、ゲームを使った学習をしたりしながら、構音練習を行っていくことで、Aの話す力を高めることができるのではないかと考える。また、話す力を高めるためには、聞き取りの力を高め、構音の改善を行いながら、コミュニケーションの経験を積ませることが必要であると考え。教師の働きかけの工夫としては、最初は不明瞭な発音に対して自然に言い直して正しい発音を聞かせるなど言葉への苦手意識をなくしていきたい。話すことへの意欲がさらに高まってきたら、Aの誤った発音をそのまま覚えて発音したり書いて見せたりして誤りに気づかせ、自分で正しい発音を意識してできるようにしていきたい。

3 児童の実態と個別目標

	実 態	目 標
A (6年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ r 音はヤ行と母音に置換。ラ→ヤ・ル→ユ・ロ→ヨ。リ→イ・レ→エ。舌がスムーズに動かない。 ・ 活動全般に体が緊張して震えるため直線を引いたり、文字を書き写すのに時間がかかる。体を動かすことは好む。 ・ 学習の振り返りは、教師が言葉を添えると二文言えることが増えた。気持ちを表す言葉は促されると表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舌先を硬口蓋に着けて弾きおろすことができる。【6-(2)】 ・ 学習に必要な道具を準備したり、枠内に直線が引ける。【5-(5)】 ・ 気持ちを表す言葉を自分から言うことができる。【6-(3)】

4 指導計画と評価(14時間扱い)

第1次 乗り物に乗って買い物に行こう・・・10時間

第2次 おうちの人にお話ししよう・・・4時間(本時2/4)

時	主な学習内容・活動	評 価
		A
1 ②	1 「r」音の構音とゲーム 2 ノートに直線と日付を書く 3 説明文を書こう ・ 写真にあった説明を書こう ・ 気持ちを表す言葉を付け足そう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「r」音の構音は、舌先を硬口蓋に近づけたあとに、舌をおろすことができる。 ・ 自分で鉛筆や・下敷きを用意し、ノートに直線を引くことができる。 ・ 「r」音の構音を意識して、様子にあった気持ちを表す言葉を付け足すことができる。
3 4	1 「r」音の構音とゲーム 2 発表会 ・ 発表会の練習をしよう ・ 発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「r」音の構音は、舌先を硬口蓋に近づけたあとに、スピードを意識して舌を弾きおろすことができる。 ・ 他者に聞こえる声の大きさに気をつけながら、最後まで発表することができる。

5 本時の指導

(1) 目標 (個別目標)

- 「r」音の舌の位置と弾きおろす感覚をつかむことができ、自分から「r」音を意識し発音することができる。
- 直線を引くために必要な鉛筆や下敷きを自分で用意することができる。
- 説明文を気持ちを表す繰り返し言葉を使って詳しくすることができる。

(2) 準備・資料

鏡・子音構音図・タンバリン・鈴・写真・気持ちを表す繰り返し言葉カード

(3) 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価(◎評価)
<p>1 始めのあいさつと構音トレーニングをする。</p> <p>(1) 学習の準備をする。 ①時刻・月日・曜日カードの入れ替え ②自己紹介 (英語 or 日本語)</p> <p>(2) あいさつ。</p> <p>(3) お口の体操と正音聞き取りをする。 ①お口の体操 (口形・ロングブローイング) ②子音練習 ③「r」音の聞き取り10回</p> <p>(4) 詩の音読「アトム」とリズム打ちをする。 ① 音読とリズム打ち ② 指揮者ごっこ</p>	<p>○いつも行っている学習準備にそって準備するできている様子を教師が認め、賞賛し、リラックスして学習が始められるようにする。</p> <p>○自己紹介をする際に指示をよく聞こうとする意欲が高まるようにゲーム形式で指示を行う。</p> <p>○ロングブローイングと体操で、体全体の緊張を和らげる。</p> <p>○新しく学んでいる「r」音の舌の位置と弾きおろす感覚をつかむことができるように教師が口形や舌先を見せたり、鏡で自分の舌の様子を見せたりさせる。「r」の構音が正しくできたら賞賛し、自分から良い音を出そうとする気持ちを高めていく。</p> <p>◎「r」音の舌の位置と弾きおろす感覚をつかむことができ、自分から「r」音を意識し発音しているか。(観察)</p> <p>○得意な音読は大きな声(強い呼気)で体全体の動きを使いながら音読させ、上手くできないジャンプやリズム打ちを楽しませるために安全面に気をつけマットから落ちないように少し支えたり、ジャンプするタイミングに合わせ少し体を少し引き上げたり、自分の力で跳躍している達成感を味わわせたい。</p> <p>○指揮者ごっこでは、相手の動きに合わせて指示が通るように指揮者の役割を教師と交代とする。</p>
<p>2 本時のめあてを知りノートに書く。 気持ちを くり返し言葉で表そう</p>	<p>○ノートに直線が簡単に引けるように、青ペンでポイントを打つ。</p> <p>◎直線引きに必要な鉛筆や下敷きを自分で用意できたか。(観察)</p>
<p>3 説明文に繰り返し言葉を付け足す。</p> <p>(1) 写真2の説明文中の「うれしい」に対し、気持ちを表す繰り返し言葉を考える。</p> <p>(2) 気持ちを表す繰り返し言葉を読む。 <r音> ランラン・ルンルン・レンレン ハラハラ・アラアラ <r音以外> ワクワク・パクパク・ドキドキ ソワソワ</p>	<p>○写真2の説明文には「うれしそう」の気持ちを表す言葉が記入されている。その言葉により、その時の気持ちが詳しく分かることを伝え、児童の自己肯定感や満足感を高めたい。その後「うれしい」気持ちを繰り返し言葉で言い換えさせる活動をする。</p> <p>○児童から繰り返し言葉が出ない時は、教師が用意したカードからその時にぴったりのカードを選択させる。</p> <p>○繰り返し言葉でr音以外が出た場合は、その繰り返し言葉も取り上げて、言葉を考えようとしていることへ賞賛をする。</p>
<p>(3) 説明文に合う、繰り返し言葉を見つけて読む。</p>	<p>○写真2の繰り返し言葉がスムーズに出た場合は、写真1か写真5について行う。</p> <p>◎気持ちを表す繰り返し言葉を使って説明文を詳しくすることができたか。(観察)</p>
<p>4 学習のまとめと振り返りをする。</p> <p>(1) 学習して思ったことや気が付いたことを話す。</p> <p>(2) 書かれた内容を発表する。</p>	<p>○文字を書くことは時間がかかるので、教師が代筆する。上手くできるようになってきたことや学習をして思ったことを児童の言葉で語らせ、詳しくするために言葉を教師が補足しながら書く。</p> <p>○構音で前回学習した「ツ」音の誤音があった時は同じ発音で繰り返し正音を導く。また今日学習した「r」音で良い音が出た時は、その瞬間に賞賛する。</p>
<p>5 次時の学習を知り、終わりのあいさつをする。</p>	<p>○次時は、残りの写真にも重なり言葉を付け足し、発表会の準備をすることを伝え、意欲につなげるようにする。</p>